

# 1) 講習会・講演会等の開催（次世代および指導者）

国広潮里<sup>1</sup>・板井英伸<sup>2</sup>・木下靖子<sup>1</sup>・西口峻平<sup>1</sup>・仲松由美子<sup>1</sup>

キーワード：一般向け 専門家向け 企画展 工作室 美ら島自然学校 子ども 親子 学習会

## 1. はじめに

当財団では、亜熱帯性動植物に関する調査研究や公共施設の管理を通して蓄積されたノウハウや研究成果等を社会に広く発信し、多くの方々に亜熱帯性動植物に関する学習の機会を提供する普及啓発事業として、子どもから大人までを対象とした各種教室等を実施している。対象は、次世代（小学生～高校生や親子）と指導者（大学生・教員・研究者・自然ガイド等）に分け、ニーズに応じたプログラムを提供している。以下に、令和7年度の実施状況を報告する。

## 2. 実施結果

### 1) 企画展

#### (1) 企画展「さがそう！自由研究のタネ」

概要：沖縄の小中学生が取り組む夏休みの自由研究に関連した展示やワークショップを行い、学習支援を図った。併せて、財団が行う調査研究等の取組を紹介し、県民への周知を図った。

講師：総合研究所職員

実施日：令和7年7月29日（火）～8月3日（日）

実施場所：沖縄県立博物館・美術館 県民ギャラリー

県内の小中学生を中心に、6日間で延べ1,882名が来場した。今年度は、未就学児やさまざまな特性をもつ子どもたちも楽しみながら学べるよう、パネルや標本展示に加え、実際に触れられる展示物を増やした。さらに、今年度初の試みとして「はかせとゆんたく」を定員・事前予約なしで実施し、多くの来場者を受け入れることができた。加えて、日替わりで異なる分野の専門家を講師としたことから、連日参加する方も見られ、関心の高さがうかがえた。

（写真-1）



写真-1 さがそう！自由研究のタネ（はかせとゆんたく）

#### (2) 企画展「舟は、人が集まる場所」

概要：沖縄県内でサバニ作り、サバニ乗船等の活動を行う「くらしのなかの海洋文化実行委員会」の写真展示。サバニの設計、造船作業、サバニによる海あそびの様子を紹介した。展示横に設置したアンケートでは、観覧したのべ456人から回答を得た（満足度平均8.39点/10点）。

実施日：令和7年12月28日（日）～令和8年1月25日（日）

実施場所：海洋文化館



写真-2 舟は、人が集まる場所

### 2) 親子、子どもを対象にした各種教室

#### (1) 美ら島自然学校学習会

美ら島自然学校学習会では、自然・文化への関心を育むことを目的として、屋内学習や野外観察などを実施している。

今年度は、ウミガメの産卵調査体験「ウミガメ産卵しちよんどー！（連続講座）」（写真-3）に30名、夜間見られる虫を観察し、図鑑を作成する「ナイトバグズハンターズ！（連続講座）」に24名、宇宙について学び、星を観察する「美ら島スターナイト」に12名、タコの研究者を招聘して実施した「のぞいてみよう！「タコ」の世界」（写真-4）に18名、紅花染めを体験する「ベニバナを使ったハンカチ染め体験（2回）」に17名、ホウセンカ染めを体験する「ていんさぐで草木染め実験（2回）」（写真-5）に25名の参加があった。



写真-3 ウミガメ産卵しちよんどー！



写真-4 のぞいてみよう！「タコ」の世界



写真-5 ていんさぐで草木染め実験

## (2) 美ら島自然学校工作室

美ら島自然学校工作室は、主に親子を対象に、さまざまな玩具等の工作を通してものづくりの楽しさを伝える事業である。

今年度も元旦に「作ってとばそう！こども凧カーブヤー」を開催し、12名の参加があった。雨天のため屋内での製作のみとなったが、後日、凧を持参して飛ばす参加者も見られた。



写真-6 作ってとばそう！こども凧カーブヤー

## 3) 海洋文化講座

海洋文化館の魅力を発信し、知名度の向上と利用促進を図ることを目的に、沖縄を含む太平洋島嶼域の海洋文化を題材とし、展示資料と関連する海洋文化講座を開催した。

海洋文化講座（海洋文化館で実施）を2回（参加者各回22名、27名）、出張・海洋文化講座（沖縄県立博物館美術館で実施）を4回実施した（参加者各回19名、17名、15名、28名）。講座のテーマは各回で設定し、地域の食文化、祭祀、航海術、漁撈などについて講義を行った。（写真-7）



写真-7 出張・海洋文化講座

## 4) 専門家講習会

専門家や関連職の方に向け、専門性の高い講演会・ワークショップ等を企画・実施し、指導者としての知識向上を図る。

今年度は、北部地域の小中学校の教職員向けの研修を2回、専門家向けの講習を2回行った。海洋文化館で行った専門講習「沖縄の人と生き物 沖縄のウミガメ」（写真-8）に14名の参加があった。ウミガメ飼育員からは、ウミガメの飼育・調査研究・生態について、海洋文化の調査員からは、ウミガメと人との関わりについて解説。その後、海洋文化館内の展示物を見ながら、ウミガメ飼育員と海洋文化の調査員それぞれの視点から、意見交換や質疑応答を行った。



写真-8 沖縄の人と生き物 沖縄のウミガメ

### 3. 今後の展望

今後も総合研究所の職員が中心となって講師を務め、調査研究で得られた成果を含む実践的な講習会や講演会等を実施していく。また、子ども向けの各種教室では、年齢や特性にかかわらず、できるだけ多くの子どもたちが沖縄の自然や文化に触れられるプログラム内容を検討していく。

### 4. 外部評価委員会コメント

子どもから大人までの一般向け、および研究者・学生・自然ガイド等専門家を対象に、沖縄の動植物や歴史文化の魅力、財団が行う調査研究成果などの情報を広く、野外観察や実験等の体験を含めて、講習会・講演会等の学ぶ機会を提供する社会貢献の高い事業である。

各市町村の企画、教育委員会、調査研究機関などへの周知や連携を進めていくことが望まれる。加えて、成果の発表や資料の刊行も大いに広げていくことを期待する。

(池田顧問：琉球大学名誉教授)